

4 - 6 (株)テツゲン 室蘭支店

弊社は、新日鐵住金構内において、新日鐵住金(株) 殿と共に「安全衛生」・「環境防災」を日頃よりご指導を頂きながら、「鉄鋼スラグ関連業務」・「回収ダスト関連業務」・「酸回収関連業務」など、「廃棄物(リサイクル資源)循環型社会」の構築をめざして各リサイクル事業に取り組んでいます。

また、防災訓練や普通救命講習を実施することで、非常時・異常時の応急対応が迅速に行える活動を実施し、被害の拡大を防ぐ活動を今後も継続していく他、平成 29 年度より環境・防災に特化したパトロールを実施し、事故・災害の防止に努めております。

弊社は、今後も室蘭市殿・各社殿と共に、「環境保全・循環型社会推進」を、維持継続してまいります。

1. 調査結果

弊社では、排出ガス濃度測定について、毎年 2 回各設備ごとに実施しております。

排出ガス抑制に対して操業基準を策定し、早めのアクションを取る事で排出ガス基準を全てクリアしています。

平成 28 年度排出ガス測定結果

設備	対象物質	自主管理値	測定結果		
			平成 29 上	平成 29 下	
塩酸再生工場	ガス発生装置 (焙焼炉)	ばいじん濃度 (g/m ³)	0.09	0.01	0.01
		窒素酸化物濃度(容量比 ppm)	203	120	120
		硫黄酸化物濃度(m ³ /h)	0.117	0.020	0.050
	廃塩酸回収設備 (吸収塔)	ばいじん濃度 (g/m ³)	0.09	0.01	0.01
		窒素酸化物濃度(容量比 ppm)	203	120	120
		硫黄酸化物濃度(m ³ /h)	0.117	0.020	0.050
ガスエネルギー工場	スラグ乾燥機	ばいじん濃度 (g/m ³)	0.27	0.01	0.06
		窒素酸化物濃度(容量比 ppm)	180	15	18
		硫黄酸化物濃度(m ³ /h)	0.99	0.12	0.01
	粉コークス乾燥機	ばいじん濃度 (g/m ³)	0.18	0.01	0.03
		窒素酸化物濃度(容量比 ppm)	90	30	23
		硫黄酸化物濃度(m ³ /h)	0.036	0.037	0.007
原料再生工場	ダスト乾燥機	ばいじん濃度 (g/m ³)	0.176	0.006	0.011
		窒素酸化物濃度(容量比 ppm)	72	26	34
		硫黄酸化物濃度(m ³ /h)	0.072	0.005	0.004
	スケール乾燥機	ばいじん濃度 (g/m ³)	0.113	0.023	0.006
		窒素酸化物濃度(容量比 ppm)	72	27	22
		硫黄酸化物濃度(m ³ /h)	0.072	0.004	0.003
肥料工場	原料乾燥機	ばいじん濃度 (g/m ³)	0.18	0.004	0.006
		窒素酸化物濃度(容量比 ppm)	90	9	52
		硫黄酸化物濃度(m ³ /h)	0.72	0.010	0.08
	製品乾燥機	ばいじん濃度 (g/m ³)	0.108	0.120	0.077
		窒素酸化物濃度(容量比 ppm)	90	14	15
		硫黄酸化物濃度(m ³ /h)	0.963	0.110	0.094

2. 環境活動への取組

(1) 年に1回、総合防災訓練を行っています。

内容は、「避難訓練」・「報告訓練」・「けが人の搬送訓練」・「通報訓練」・「消火訓練」を実施しています。

より実質に合った訓練とする事で、遅延・混乱なく速やかな対応を取る事が出来、社員の安全を確保出来るよう努めています。

また、平成29年度は室蘭市消防署殿にご協力頂いた事で、更に実地に近い模擬訓練を行う事が出来ました。



(2) 安全宿泊研修を年2回(対象者を2班に分けて)実施しており、安全に関する教育と環境防災に関する教育を従業員及び協力会社員に実施しています。



- (3) 環境トラブルの防止・抑制を推進するため、環境・防災に関する視点に特化した「環境・防災パトロール」を定期的の実施しています。



また、パトロールにて指導事項や要望事項、好事例などを拾い上げ、リスクアセスメント活動の推進・活性化へ向けた活動も展開しています。

環境リスクアセスメント 変更及び対応報告書		実施日時	実施場所	実施者	実施内容	発見事項	対応状況	備考
1	2023.12.15	本社工場	山本	山本	環境・防災パトロール実施
2	2023.12.15	本社工場	山本	山本	環境・防災パトロール実施
3	2023.12.15	本社工場	山本	山本	環境・防災パトロール実施
4	2023.12.15	本社工場	山本	山本	環境・防災パトロール実施
5	2023.12.15	本社工場	山本	山本	環境・防災パトロール実施

- (4) 平成 29 年度は公害防止管理者の資格を 2 名が取得し、環境汚染に関する知識向上並びに自社ばい煙発生施設の維持・管理強化に努めています。

3. 今後の対応

- (1) 平成 30 年、公害防止設備の保全強化を推進し環境負荷低減に取り組みます。
- (2) 推進項目
- ・各設備の排出ガス濃度測定継続
 - ・排出ガス測定項目濃度の低減対策検討
 - ・老朽更新の計画的実施と、高効率設備導入による省エネ対策
 - ・平成 34 年度までに低濃度 PCB 含有変圧器 13 台の処理を計画(平成 30 年度は 3 台処理予定)